

六華門

新潟大学の60年間の軌跡とこれからの発展を象徴するものとして、大学の玄関口とアイストップモニュメントの役割とを兼ね揃えた六本の柱からなる門を提案する。

柱一つ一つは二枚のプレートの間にアクリル板を挟み込んだ三層構造で、アクリル板を通して主に下方向からの照明とする。夜間時は足下が照らされ、影による演出も楽しむことができる。また、六角形配置にすることでメインストリートへ繋がる一方向だけではなく、柱と柱との間、全てが門の役割を果たし、学生・職員・来客・周辺地域の人々に対して開かれた、親しみのある門になっている。また、特徴的な形を使用することで、本学の新たなランドマークとして位置づけられ、シンボリックなデザインになっている。六本の柱のうち一本は新潟大学の看板として用い、大学の情報を発信するのに役立てる。

■ 歩車分離

正門からの出入りは歩行者と自転車のみであるが、敷地入退場時において歩行者・自転車の混雑を緩和するために通路を分け、広いスペースで合流させ、機能性と安全性を兼ね揃えたものとする。松の木を通路の中央に配置することで歩行者を自転車を分離している。道路との境界には車止めを設け、車やバイクの侵入を防ぐ。

■ 歩行空間と自転車空間との違い

自転車の動線はスロープ状のものとし、六角形を元にした三角形のグリッド上で結んだスプラウト曲線に基づいている。幅は〇〇m前後である。

スロープに歩道を作ることで、車椅子の方の通行を可能にする。歩行空間の仕上げは四角形のタイルを用い、視覚障害者誘導用ブロックを設置することでユニバーサルデザインに配慮した空間になっている。

■ 休憩スペース

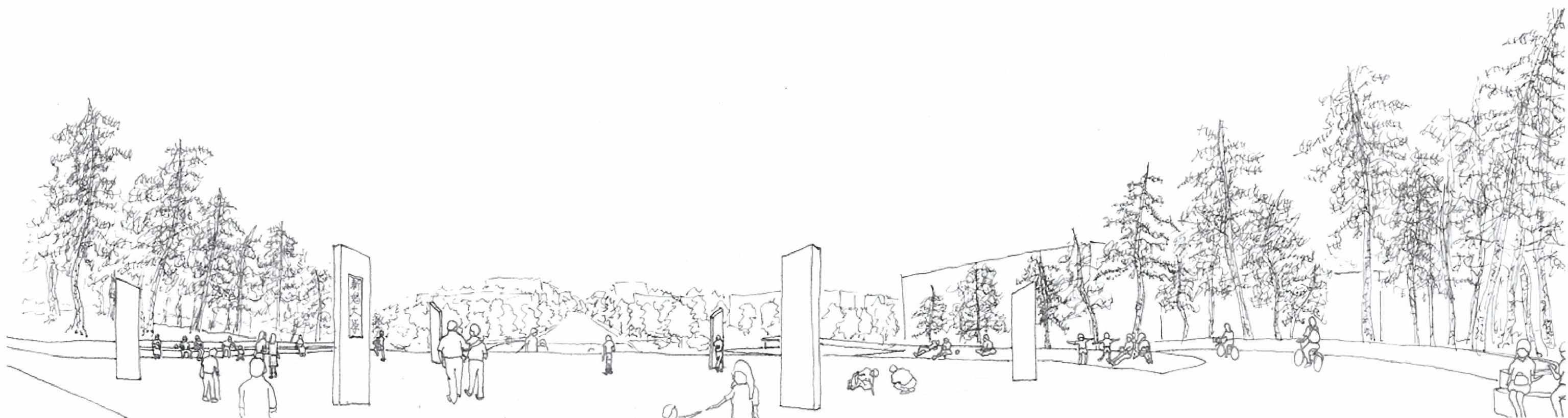
階段とスロープの間に芝生から続くデッキを設け、誰もが気軽に立ち寄れる休憩スペースとする。また、通学・下校途中に休めるスペースとして入り口周辺にもベンチを配置する。

■ 松林

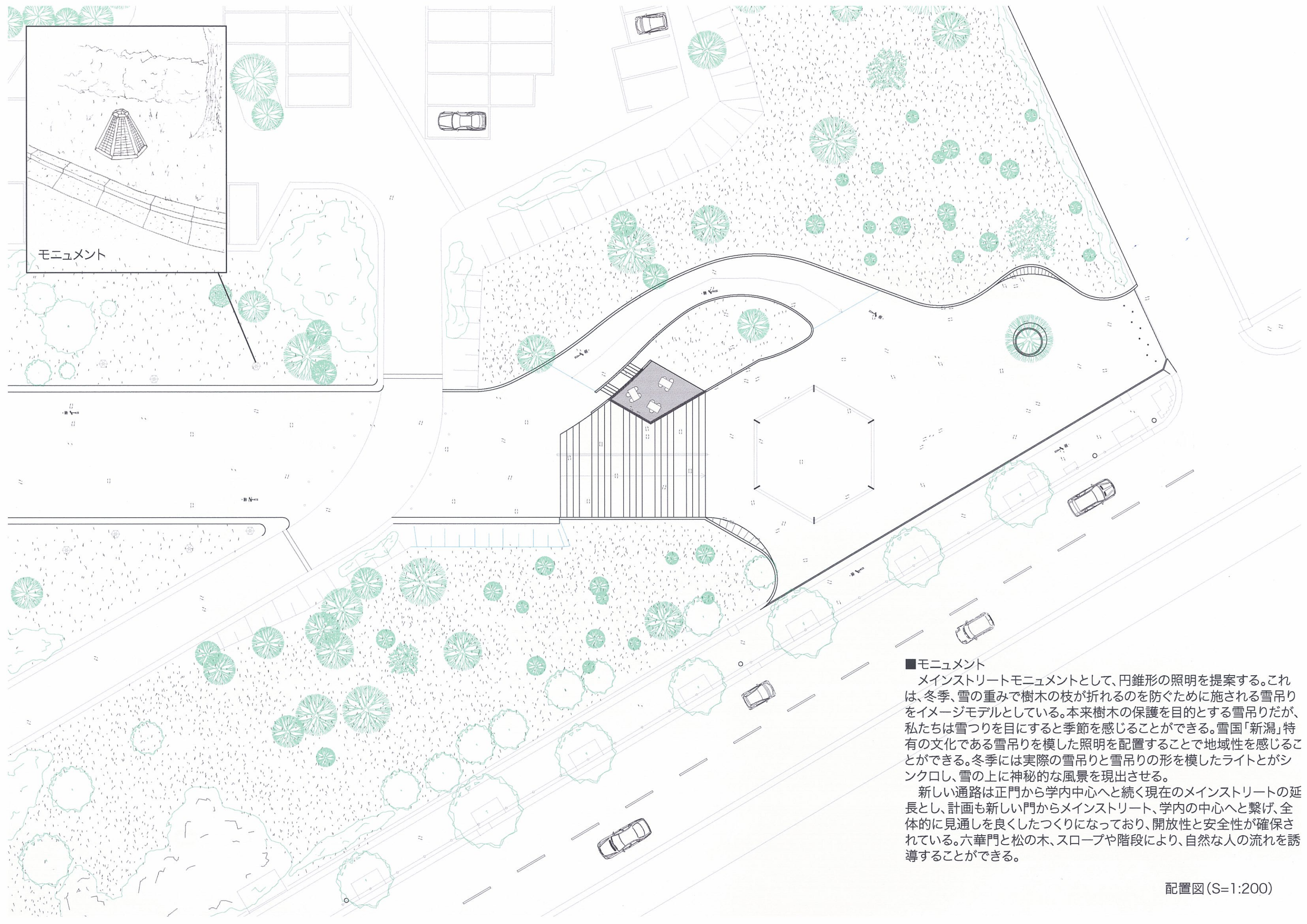
現在ある松林は間引きし、外から中が見えることで地域住民から学生の姿を見やすくし、中から外の様子が見えることで防犯効果を高める。また、松の木はカラスの飛来先でもあるため、大学構内に飛来するカラスの数を減少させる効果がある。



正門パース(本部側より)



正門パース(北側入り口より)



モニュメント

■モニュメント

メインストリートモニュメントとして、円錐形の照明を提案する。これは、冬季、雪の重みで樹木の枝が折れるのを防ぐために施される雪吊りをイメージモデルとしている。本来樹木の保護を目的とする雪吊りだが、私たちは雪つりを目にすると季節を感じることができる。雪国「新潟」特有の文化である雪吊りを模した照明を配置することで地域性を感じることができる。冬季には実際の雪吊りと雪吊りの形を模したライトとがシンクロし、雪の上に神秘的な風景を現出させる。

新しい通路は正門から学内中心へと続く現在のメインストリートの延長とし、計画も新しい門からメインストリート、学内の中心へと繋げ、全体的に見通しを良くしたつくりになっており、開放性と安全性が確保されている。六華門と松の木、スロープや階段により、自然な人の流れを誘導することができる。